

地域・防災だより

第49号 2020年7月
天嶽院下自治会・自主防災会
(作成協力)防災協力グループ

コロナ禍が自治会活動にも影響(大森自治会長)

コロナ禍で4月～6月中旬まで活動は停止状態でした。この間は会員の健康を心配し、唯々地域内の感染拡大防止の為の情報を発信してまいりました。やっと行動自粛が解除されたものの、例年と同様の活動は難しい状況です。引続き感染拡大防止策のもと、内容や企画等を工夫しながら、自治会活動を再開していきたいと思います。



天嶽院下子ども会の活動紹介

今年度の子ども会(三浦会長、小学生会員67名)は、4月以降コロナ禍の緊急事態宣言で活動が出来ない中、6月から分散登校が始まりました。この先の情勢次第では変更の可能性があります。今後は例年の夏休みラジオ体操、秋の村岡地区レクへの参加、公園交流まつりのポスター制作、3月の6年生を送る会などの行事予定があります。廃品回収活動は毎月第2火曜日に町内5カ所で実施しています。



今年度の防犯パトロール活動近況

今年度の自治会の防犯防災部役員とボランティア会員計21名(渡辺隊長)は、コロナ禍で活動停止中でしたが、6月下旬から毎月第2・第4土曜の夜間、拍子木を叩き「火の用～心!! 戸締り用～心!!」と呼掛けながら町内を巡回し、防犯灯や道路標識の不具合を点検するなど、地域の安心・安全に貢献しています。どうぞ皆様もご参加下さい。



自治会(自主防災会)が「自主防災講話会」を開催(6月27日)

進行と説明を大森会長が行ない、(1)神奈川県が製作した風水害対策の普及啓発映像の上映、(2)村岡地区防災の最近の取り組み状況、(3)自治会の自主防災活動と体制について説明されました。既に台風シーズンに入り、また日本各地で震度4及び5クラスの地震が観測されており、参加した今年度役員や地域関係者が熱心に聴講していました。コロナ禍の今年、参加者はマスクを着用し入口で体温測定と手の消毒を行い、会場は3密対策でイス間隔をとり、換気に注意していました。



防災キャンペーン(家庭備蓄) 藤沢も含まれる南海トラフ巨大地震対策では、事前防災を重視し家庭での備蓄を1週間以上と呼び掛けています。従来3日分以上と言われてきましたが、避難施設の藤ヶ岡中学校は、藤沢市より一定の備蓄を備え、かつ自治会(自主防災会)も若干の防災機材と、水や非常食の備蓄を行っていますが、充分ではありません。よって各家庭での食料・水、カセットコンロ、簡易トイレ、乾電池などの備蓄を最低でも1週間分確保して頂きたいのです。大災害時は公的支援が遅れる為、まずは「自助」が大原則であり、その上で「共助、公助」を行うのが過去の大災害からの教訓です。

自主防災本部・一時避難場所:御幣下公園

避難施設:藤中

広域避難場所(大火時等):天嶽院・藤中